

令和元年度 上田市立塩田西小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
かしこく やさしく たくましく ～一人ひとりが生きる学校づくり～	「かしこく」 意欲的に学習に取り組む子ども 「やさしく」 人やものを大切にする子ども 「たくましく」 心と体をきたえる子ども
	今年度の重点目標
	1 学び合いによる「わかる・楽しい授業」づくり → 自分の考えを発信しよう。
	2 誰もが安心できる学級・学校づくり → 良さを認め合おう。
	3 自分を向上させる心と体づくり → 目標を持って挑戦しよう。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程・学習指導	特色ある教育活動の意識化	・ふるさと体験学習を通して、探究する楽しさや粘り強く追究する意識を持たせることができたか。
		学習に向かう基本姿勢	・全校共通の「塩田西スタイル」の意識化に取り組んでいるか。
		子ども主体の授業	・学習問題を明確にし、友だちと主体的に関わり粘り強く追究する場を設定し、子どもが主体となる授業を展開しているか。
		授業の3観点の実行	・学習の「ふりかえり」を意識した授業を展開しているか。
		豊かな自己表現力の育成	・考えを伝え合いながら学習を深める学び合いの場を設定しているか。
	生徒指導・学級経営	挨拶の励行	・職員自ら挨拶をし、あいさつのよさを意識させる事で、児童が進んで挨拶を行う姿を学校や地域に広げることができたか。
		主体的に活動する子どもの育成	・目当てを明確にし、子どもが主体的に活動する児童会活動、学年学級の活動の場を設定したか。
		認め高め合う子どもの育成	・児童が「認められている自分」「肯定感」を意識できるような場の設定や勇気づけをしているか。
		たくましい心の育成	・目標設定、行動、評価のサイクルを回し、挑戦する気持ちを育てる場を設定しているか。
	学校運営	キャリア教育の推進	・地域講師の支援等により、ふるさと体験学習を充実、発展させているか。
		積極的な情報発信	・学校ホームページ、学校だより等で情報の発信ができているか。
		児童の安全確保	・安心メールを活用したり、安心の家、安全ボランティアと連携したりしながら、保護者や地域の方と協力して取り組んでいるか。
		研修	・子どもが安心できる学級づくりと学び合い考えを伝え合う授業づくりに向けた研究・研修に取り組んでいるか。

総合評価						
○長野大学、市教委と連携し授業のユニバーサルデザイン化の視点からの授業改善に取り組んだ。視覚的、具体的、肯定的支援により、課題把握の時点で見通しを持ち、主体的に学習に取り組む姿が見られた。 ○授業時だけでなく、肯定的支援を意識して取り組んだ。学級の肯定的雰囲気や子どもたちの自己肯定感を高め自他を大切に作る姿が見られた。 ○「たくましさ」を「成功した」「勝った」「できた」といった結果だけでなく、過程に目を向け勇気づけていくことが子どもたちの心を耕し、たくましさにつながって行くことが分かった。						
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
個人追究→ペア・グループ学習と、必ず話し合う場を設定する事でお互いの考えを伝え合うことができた。		○			「どこが違うのか」「どちらがいいのか」など話し合いの視点を焦点化することで深い学びにつなげたい。	
肯定的支援が、学級の肯定的雰囲気を生み、児童の自己肯定感を高め、自他を大切にするようになった。	○				姉妹学級による活動を定期的に設け、学校全体で認め合う場を作り、自己有用感を高めたい。	
日本1周マラソンと銘打ったマラソン月間では、1周1県、白地図に色づけをした。目標が意欲的な姿につながった。		○			一人ひとりが自分に合った目標を持ち継続した取り組みになるように工夫していく。	
成果と課題					改善策・向上策	
地域を学ぶことが自己肯定感につながっており、意欲的で感動のある学習だが、活動の精選も必要になっている。	○				前年踏襲の活動から、児童から内発的に出てきたテーマを元に追及する体験学習にしていこう。。	
UD化の柱を「視覚的、具体的、肯定的」と限定したことにより、分かりやすい授業が展開できた。観ている子どもに視点をあてUD化を進めたい。		○			板書の構造化、授業展開の明示など、個人で行っていたUD化を、共有化し、本校の「塩田西スタイル」を確立していきたい。。	
学習問題から学習課題の設定までの道筋を明確にすることで見通しが生まれ、主体的に追及する授業につながった。課題設定までに時間をかけすぎずの傾向がある。		○			子どもの言葉で学習課題を設定し、追求の見通しや観点を明確に(具体化)することで、さらに深い学びにつなげていく。	
「ふりかえり」は意識されていたが、子ども自身がふりかえり、子どもの言葉でのふり返りができないことが多い。			○		1時間のねらいを明確にし、課題把握の段階で1時間後の自分の姿を思い描けるようにすることで、常にふり返りが意識できるようにしたい。	
ペア学習、グループ学習を授業の随所に入れ、考えを伝え合える場面を設定した。論点が明確にならず、深まりのない話し合いになってしまうこともあった。		○			考えの伝え方や学び合いの場でのポイントを教え、実際の伝え合い、学び合いの中でトレーニングすることで、対話的で深い学びにつなげて行きたい。	
職員自ら明るい笑顔を意識して挨拶していた。子どもの挨拶については地域では高評価であるが、校内での挨拶には子どもによって差があった。		○			児童会を中心とした挨拶運動を支援していくとともに、自然と挨拶をし合える関係をつくり、深めていきたい。	
児童会大集会など、子どもたちが主体的に活動に取り組める場を意識して設定した。6年生が中心になり全校児童が楽しめるよう工夫して取り組んでいた。		○			児童会活動等、自分達の活動が他者の役に立っていることを知らせ、意義を感じながら主体的に取り組ませたい。	
塩田支会UD化3視点の中でも特に「肯定的支援」についてはいつでもどこでも意識して行われている。QUの学級満足群が増えている。	○				肯定的支援をさらに進め、認められている安心感を持たせたい。また、QU検査の結果を分析し見えない子どもの思いを受け止めていく。	
日本1周マラソンでは、1周1県、白地図に色づけをした。挑戦する課程を大切にし、達成者を放送で紹介するなど、成就感を味わわせたが、取り組みには個人差があった。		○			運動会や、音楽会で児童一人ひとりに応じた目標を持たせ挑戦することの楽しさや尊さを味わわせていきたい。	
地域講師の厚い支援により、充実したふるさと体験学習になっている。子どもの成長に合わせた体験は、自らの未来を考えることにつながっている。活動の精選は課題。	○				信州型CSの外部コーディネーターの方と連携し、新たな地域講師を発掘するとともに、ボランティア同士の繋がりも作り、学校に力を与えてもらいたい。	
子どもの姿が伝わるように学校便り、学年便りを発行した。また、マスコミに積極的に取材依頼をかけ、独自の活動を広めた。HP更新はICT支援員によるところが大きかった。	○				より安心安全な学校環境のため、安全健康に関しては早めの情報発信に努めたい。	
年度当初安心メールの登録を確認し、全家庭に配信できるようにした。また、地域の方にも登録していただき地域ぐるみで子どもたちの安全確保に取り組んだ。		○			安心安全メールの返信機能を使うなどして、保護者、地域の方との連携を密にしていきたい。	
UD化の視点を入れた授業改善のための公開授業を10本行い、その都度、長野大学の先生を交え研究会を行った。せっかくの授業だが参観の体制が作れず、残念だった。		○			UD化による授業改善の研修を中心に据え研修を行っていく。また、MIMやQUなど、UD化の根本になる児童理解に関する研修の充実を図る。	

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった